

## 第5節 高校2年生

# 国際理解と平和 沖縄に学ぶ

今 村 敦 司・松 本 真 一  
山 田 貴 久・大 矢 美 香  
中 村 忍・中 野 和 之

【抄録】 高校2年生の総合人間科は、「国際理解と平和」を大テーマとするグループ研究であり、11月の沖縄研究旅行とも連動した大掛かりなものである。従来の「平和」＝沖縄戦の学習から一歩進んで、今年度は、沖縄を総合的に捉える中での平和の在り方を念頭において研究を進めさせることを意図した。

【キーワード】 国際理解 平和 グループ研究 沖縄 沖縄戦 基地問題

### 1. テーマ 国際理解と平和

サブテーマ 沖縄に学ぶ

### 2. 学年目標、ねらい、伸ばしたい力など

#### ・学年目標

グループ学習を通じて学び合い、相互理解を深め、協力して問題解決にあたる姿勢を持つ

#### ・ねらい

現在の沖縄の問題から、現代の世界が直面する「国際理解」の問題、「平和」の問題を考えさせる

#### ・伸ばしたい力

- ・現在の問題を認識し、その原因を探っていく力
- ・現在の諸問題の関係性を認識し、整理・分析する力
- ・グループで協力して課題を設定し、その課題を解決する力

### 3. 活動内容

- ・沖縄のプレ研究を通じて、フィールドとしての沖縄について、基本的な知識を身につける。
- ・自分たちのテーマを選び、FWを行い、研究することで、今の沖縄における「国際理解」「平和」とは何であるかを考える。
- ・集録執筆・発表を通じて、自分たちの研究をまとめ、かつ他のグループとの研究・体験の共有をはかる。

### 4. 評価方法

- ・教員による評価（ワークシートへの記入・提出、FW等への取り組み、集録）  
→ワークシート・集録の完成度、課題の提出状況、作業への参加状況など
- ・生徒自身による自己評価（アンケート、発表や一年間の振り返り）

→事前事後アンケートの比較など

- ・生徒間の相互評価（ディスカッション、グループ作業、発表）

→話し合いへの参加状況、作業での寄与度、発表の完成度など

### 5. 系統性

- ・前年度とのつながり

高校1年生は、個人研究でテーマの追究方法を学んだ。2年生では、昨年身に付けたテーマの追究方法を生かしながら協力して、グループ研究を行う。他のメンバー、クラス、学年で学び合う。

- ・「持続可能な開発のための能力」(ESD)との関わり

フィールドとしての沖縄の諸問題（本州とは異なる沖縄の歴史的位置・戦争の問題・米軍基地問題・自然破壊問題など）は、現在の国際社会が抱える諸問題の縮図と言える。沖縄の諸問題を自分たちにつながる問題と認識し、その解決策を探ろうとする今年度の学習は、ESDを養う点でも意義のあることだと思われる。

### 6. 授業計画

(前期)

回	日	授業内容(予定)	使用教室
1	4/12	オリエンテーション (高2総人概要、プレ研究の説明)	図書館
2	4/18	研究旅行の下見報告 ※PTA授業参観	小体育館
3	4/26	プレ研究① (グループ分け、内容検討)	HRなど
4	5/17	プレ研究②(準備)	HRなど
5	5/31	プレ研究発表会	HRなど
6	6/14	輪読会発表会	HRなど
7	6/28	研究グループ(旅行班)結成 研究テーマの検討と決定	HR

(後期)

8	8/30	研究テーマ決定、FW日程検討・交渉開始	HR
9	9/20	映画「GAMA-月桃の花-」	野依記念館
10	9/27	FW先依頼文発送、質問内容検討	HR
11	11/1	FW先報告会	第一総合
12	11/15	沖縄研究旅行(13日~16日)	
13	12/6	FW発表会	第一総合
14	1/24	研究集録原稿締切	HR
15	2/14	高校3年総人「生き方を探る」準備	
16	3/7	高校1年生への発表	

## 7、プレ研究

### I、『沖縄修学旅行』輪読会

最初の3回の総人の時間をプレ研究として、「沖縄とはどのような地域なのか、現在の沖縄にはどのような問題があるのか」を基本的な知識として学習した。

具体的には『沖縄修学旅行』の章を分担して読み、プリントやB紙に内容をまとめて、グループ内・クラス内で担当部分の発表を行った。

#### A、輪読の分担・・・8人1班のグループ(クラス内に5つのグループ)

(1)『沖縄修学旅行』第6章の10のキーワードのうち、2つのキーワードをひとつのグループで担当した。(グループで重ならない)

- a 「沖縄の三つの日付」    b 「キーストン・オブ・ザ・パシフィック」
- c 「二つの「政府」」    d 「銃剣と「ブルドーザー」」
- e 「島ぐるみ闘争」    f 「平和憲法下への復帰」
- g 「B52」    h 「反戦地主」
- i 「海邦国体」    j 「二つの「4. 17」」

(2)『沖縄修学旅行』第1章から第5章のうち①~⑧の部分、グループ内の8人で分担した。

- ①第一章の1 (p.8~27)
- ②第一章の2 (p.27「中部・首里戦線—50日間の死闘」~ p.55)
- ③第一章の3 (p.55「摩文仁の丘の慰霊碑群と沖縄戦の本質」~ p.84)
- ④第二章の1 (p.86~115)
- ⑤第二章の2 (p.115「沖縄の基地の“歴史”」~ p.138)
- ⑥第三章 (p.140~166)
- ⑦第四章 (p.168~211)

### ⑧第五章 (p.214~244)

#### B、準備と発表

(1)第6章の部分(キーワード)

ひとつのキーワードについて、B紙1枚分で内容をまとめ、発表した。

(2)グループ内輪読会

・1人5分を目途に、それぞれ担当の箇所をグループ成員に発表した。

II、映画『GAMA~月桃の花』の鑑賞。

平和講話の講師、安里要江さんをモデルにした映画を鑑賞した。

## 8、沖縄研究旅行(旅行日程)

◎1日目 11月13日(火) 生徒集合(中部国際空港アクセスプラザ) 7:50

中部国際空港—(JTA253便)—那覇空港 = ひめゆり会館 =  
8:50                      11:20 12:00 13:00    14:30  
= 魂魄の塔 = = 米須海岸 = = 糸数ガマ = = ホテル・那覇  
15:30 16:00 17:30 18:30  
夕食後 平和講話(安里さん)  
20:00~21:00

◎2日目 11月14日(水)

那覇 = = 嘉数高地 = = 平和祈念公園(御国入聖堂の塔・資料館・食堂・平和の礎) = =  
8:20 8:50 10:00 10:50 11:30 12:00 13:20 13:40  
= = 首里城公園 = = 国際通り(散策) = = ホテル・那覇  
14:20    15:30 15:50                      17:30  
夕食後 エイサー体験  
20:00~21:30

◎3日目 11月15日(木)

那覇 = = <終日 タクシーにて班別研究> = = ホテル・北中城  
8:30~9:00 ジャンボタクシー18台    15:30~17:00

◎4日目 11月16日(金)

北中城 = = 安保の見える丘(道の駅) = = 那覇空港—(JTA254便)—  
9:00    9:30                      10:30 11:30 13:05  
中部国際空港 ※荷物受け取り・点呼後順次解散  
15:05

## 9、フィールドワーク先一覧

A組	研究テーマ	出発/到着	訪問先	訪問予定時間
1班	沖縄戦	8:30	太田平和総合研究所	10:00~11:00
		17:15	沖縄平和祈念資料館	13:30~14:30
2班	沖縄と戦争	8:00	旧海軍司令部壕	9:00~10:15
		17:15	佐喜真美術館	11:10~12:30

3班	森林と生物の関わり	8:10	沖縄県衛生環境研究所	9:00~10:30
		17:15	琉球大学 理学部	15:00~16:30
4班	海～サンゴ～	8:30	琉球大学 理学部	10:00~11:00
		17:30	海の種	13:30~14:30
5班	歴史から見る文化	9:00	第一牧志公設市場	10:00~11:30
		17:20	NPO法人コザインフォメーションセンター	13:00~14:00
6班	ニライカナイ信仰 民謡 琉舞 方言	8:30	沖縄県立芸術大学	9:00~10:00
		17:00	琉球大学法文学部	11:00~12:00

B組	研究テーマ	出発/到着	訪問先	訪問予定時間	
1班	沖縄基地問題と平和	8:30	沖縄県警察本部	8:30~9:00	
		17:15	佐喜眞美術館	11:00~13:00	
2班	基地問題	8:00	琉球新報社	9:30~10:30	
		17:30	NHK沖縄放送局	13:30~15:00	
3班	沖縄の自然環境からつながる国際理解	8:30	沖縄県環境生活部 自然保護課	9:00~10:00	
			沖縄県教育委員会 文化財課	9:00~10:00	
		17:30	琉球大学 農学部 亜熱帯農林環境科学科	13:00~15:00	
4班	海洋酸性化によるサンゴへの影響	9:00	琉球大学理学部海洋自然科学科生物系	10:00~11:00	
		17:30	プセナ海中公園	13:00~14:30	
5班	沖縄人の心理とその変化	8:30	琉球村	10:00~11:00	
		ニライカナイ信仰 民謡 琉舞 方言	8:30	沖縄県立芸術大学	9:00~10:00
			~芸能・文化からたどる		沖縄文化協会
		17:30	琉球大学客員教授	16:00~17:00	
6班	沖縄の歴史文化と平和～観光と経済から見る	8:50	財団法人沖縄観光コンベンションビューロー	14:00~15:00	
		17:30	株式会社サン食品	9:30~13:00	

C組	研究テーマ	出発/到着	訪問先	訪問予定時間
1班	国際関係における文化的影響	8:30	那覇市伝統工芸館	11:00~13:00
		17:25	琉球大学 教育学部	14:00~15:30
2班	客観的に戦争と平和を考える	8:30	沖縄平和委員会	8:30~12:30
		17:00	沖縄タイムス特報	13:30~14:30
3班	マングローブを通して見る国際理解	9:00	琉球大学 理学部	10:00~11:00
		17:00	琉球大学 農学部	12:50~16:30
4班	同年代の平和に対する意識の違いについて	9:00	沖縄国際大学 学生サークル「smilife」	10:30~12:00
		17:30	県立読谷高等学校	16:30~17:00
5班	沖縄の食文化とその歴史	8:40	よんなーフード	9:00~12:00
		17:17	御菓子御殿	14:00~15:00
6班	基地問題から見る沖縄の安全保障	9:00	那覇空港事務所	9:30~10:30
		17:30	佐喜眞美術館	11:00~12:10

## 10. 成果と課題

プレ研究は、『沖縄修学旅行』（高文研発行）を輪読して各自の知識を高めた。輪読担当部分を読んだ感想に「沖縄と本土での時代年表を実際に並べてみて、こんなにも異なる歴史を歩んできたのかということの思い知らされた」「基地関係の問題点が色々と浮かび上がってきた」など現状認識が深まったことを挙げている。

沖縄フィールドワークでは、グループ訪問を行い、直接現場の担当者に会い、話を伺いに行った。民謡と方言を研究したグループの感想として、「民謡と方言は、いつの時代も人の心を和ませたり、心の拠り所になっているということです。方言に関しては、戦争中方言でしゃべるとスパイとして扱われ、処刑された」事実を学び、「戦争の悲惨さを改めて体験できました」と結んである。民謡と方言という沖縄の文化にも戦争の影響が色濃く残っていることに気づいた学習であった。

フィールドワーク後の国際理解と平和について自分で考えたことについての質問には、「国際理解の前に国内理解が必要だと分かった。知っていたつもりが、実は何も分かっておらず、これでは世界で問題を訴える上で、あまりにも浅い考えだった。自分の国の歴史と現状を踏まえて、平和のために何ができるか考えていきたい」といった根本的な問題点の指摘や「私は理解しているつもりだったけど、自分で思っていたよりも視野が狭いことが分かった。きっと私のように国際理解をしているつもり、平和について考えているつもりになっている人はたくさんいると思う。考えの共有、学び合いで新たな気づきをする必要があるのではないかと思った。それによって国際理解と平和の本質の追究が可能になると思う」といった、事前に分かったつもりになっている状態を超越しなければ先へ進まないことに気づき、その解決策に学び合い＝協同的な学習の場の必要性を説いている。

全体を通しての反省では、「人に任せてはいけないとしみじみ実感した。知りたいという気持ちを持って研究していくことが大切」、「今回の研究ではグループ学習という点を全く活かさなかった。自分は今までになかったことをやりたい。何か高度を思えるようなことをやってみたいと思うが、班のみんなは無難に終わりたいと願っている。そこで自分でやることになるが、自分でやりたいと言いつつ出たことである上、他の班員に頼んだときの嫌そうな顔が思い浮かばれ、結局他の班員に頼めず一人で全部やることに」なってしまった生徒もいた。個人研究となるプレ研究は個人個人が学習を深めていけるが、グループ学習では、中心となる生徒に学習活動の全体が覆い被さってしまい、全体の成員の学習にバラツキが出てしまっていた。一部のグループではあるが、グループ学習の持つ難しさが出てしまった格好である。今後、改善していかなければならない課題である。